



DEN

No.16

2015.8.8
発行

作業療法を伝える
NEWS&COMMUNICATION

公益社団法人 大分県作業療法協会 広報誌



心豊かに作業療法

CONTENTS - 特集: 認知症支援 -

- | | |
|--|---|
| <p>1 施設紹介: 医療法人玖寿会 高田病院
施設紹介: 介護老人保健施設 健寿荘</p> <p>3 インタビュー: 「オレンジカフェ由布」の取り組み</p> <p>5 まんが作業療法物語 ~認知症編~</p> <p>10 教えて! 作業療法「新オレンジプラン」</p> | <p>11 第32回全体研修会
認知症初期集中支援チームと作業療法士の具体的な取り組みについて</p> <p>12 第18回大分県作業療法学会</p> <p>13 以心DEN心</p> <p>14 活動報告
協会イメージキャラクターの紹介</p> |
|--|---|



公益社団法人 大分県作業療法協会

医療法人玖寿会 高田病院

所在地：大分県玖珠郡玖珠町帆足259
TEL 0977-72-2135

病床数：51床

- ・地域包括ケア病棟…10床
- ・一般病棟……………15床
- ・療養病棟……………26床

リハビリテーション科：

入院中や外来通院でのリハビリ及び、介護保険事業での訪問リハビリを実施しています

訪問スタッフ：作業療法士1名、理学療法士2名

提供地域：玖珠郡内(玖珠町・九重町)



当院は、平成26年4月に訪問リハビリテーション事業所を開設しました。当事業所は、「生活の中で必要なこと、望むことができるようになる」を方針に、生活に直結したリハビリテーションを提供しています。対象者の多くは、脳卒中や整形疾患の方ですが、高齢化に伴い、認知症を合併している方が増えてきています。その中で作業療法士は、自立した生活に必要な、立ち上がりや起き上がりなど基本動作、歩行・排泄・食事といった身辺動作、そして庭の手入れや老人会への参加、買い物といった趣味・余暇活動などの幅広い生活行為の改善に向けた指導・支援を行っています。



訪問スタッフ

今回、認知症の中でも軽度認知症※に対する支援内容についてご紹介します。

まず、ご本人・ご家族が希望される生活目標の実現へ向け、日常生活を遂行する能力を把握します。特に服薬管理、火の管理、金銭管理、交通機関の利用といった生活行為は、軽度の注意力や判断力、記憶力の低下で障害を伴うため、実際の環境下での評価が重要となります。次に、評価結果をもとに練習内容を立案し、注意点や方法などの支援の在り方についてご本人、ご家族のみならず、関係する介護保険サービスのスタッフに対しての積極的な助言・提案に取り組んでいます。

今後も認知症を含む心身に障害を呈した方やご家族、地域住民が暮らしやすい地域づくりに貢献できる作業療法士として邁進していきたいと考えています。

※軽度認知症とは 1.記憶障害の訴えが本人または家族から認められている 2.日常生活動作は正常 3.全般的認知機能は正常
4.年齢や教育レベルの影響のみでは説明できない記憶障害が存在する 5.認知症ではないとされています。



訪問介護との情報交換



情報収集場面



調理訓練場面



信号機がない道路での横断練習



記事担当者／大田 繁



医療法人至誠会 介護老人保健施設 健寿荘

所在地：大分県由布市挾間町鬼崎4-1

TEL 097-583-0051

定員：入所100名 通所40名

対象者：入所は要介護状態にある高齢者・若年性認知症の方
通所は要支援・要介護状態にある高齢者・若年性認知症の方

関連施設：地域密着型サービス事業所 バンブーハウス

居宅介護支援センター 暖家

リハスタッフ：作業療法士2名、理学療法士2名、言語聴覚士3名



当施設は昭和63年11月に大分県第一号の老人保健施設として開設いたしました。大分市と由布市の境に位置する小高い丘の上にあり、秀麗な由布岳・鶴見岳を眺望でき、また素晴らしい自然環境の中にあります。「誠実・信愛・奉仕」の理念のもと、利用される方の自立支援、ご本人とご家族の笑顔が見えるリハビリテーションを行っています。基礎的な心身機能の維持改善、身の回り動作の維持改善、QOLの維持向上等に向けて、多職種が協働し関わっています。入所、通所、訪問リハビリテーションに加え、地域密着型サービス事業所「バンブーハウス」、地域の老人会での運動指導等、幅広い活動を行っています。また、平成26年度末からは、地元の老人会での認知症予防事業にも着手しました。このように、施設利用者のみならず、地域に開かれた施設となり、住民の方への認知症の理解と健康づくり、リハビリテーションの普及啓発に力を入れています。



健寿荘「運動会」の様子



健寿荘「生け花教室」での一面

認知症カフェ「オレンジカフェ 由布」

平成25年6月に大分県初の認知症カフェとしてオープンしました。由布市の未来館(公民館)で毎月第1、2、3土曜日の10:30～12:30に開店しています。地域で暮らす認知症の方とそのご家族、民生委員、一般住民等の方々が集い、コーヒーを飲みながら認知症について気軽に語り、心が軽くなる場を目指しています。認知症の方には、専門的な知識を有するスタッフやボランティアが付き添い、トランプやボランティア活動、近隣への散歩など、その方の持てる力や興味関心に応じた活動を行い、その人らしさを発揮して楽しむ時間を作り出しています。誰でも参加できる場です。お気軽にお越し下さい。



「オレンジカフェ 由布」看板



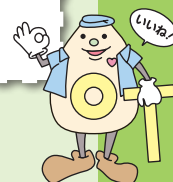
オレンジカフェにお越しいただいた皆様



オレンジカフェでの趣味活動



記事担当者／池田・徳野



「オレンジカフェ由布」の取り組み



介護者 **那波 順夫**さん
Nawao Nobuo



▲那波さんご夫婦

- 今回、認知症の診断を受け、オレンジカフェ由布(以下カフェ)を利用する妻を支える那波順夫さんとボランティアで参加している作業療法士の佐藤友美さん、健寿荘施設長の増井玲子医師からお話をうかがいました。

介護者：那波 順夫さん

Q1. 奥様の様子に異変を感じたのはどのようなことからですか？

A 7年ほど前、銀行で妻が記名をしようとした際に手が止まったのです。何をやってんだろう？と思ったら「字が…書けない…」と言ったのです。疑問に思いながらも、帰宅し妻に何度も名前を書かせようとしたのですが書けなかった。そこで主治医のところへ行き、色々な検査をした結果、「認知症」と診断されました。その前から兆候があったのかもしれませんが私は気づいていませんでした。

Q2. カフェを利用するようになったきっかけを教えてください。

A 大分大学医学部附属病院で出会った主治医の先生にカフェの存在を教えてくださいました。でもすぐに通いだしたわけではありません。カフェは認知症のお年寄りが多いと聞いており、59歳の妻が利用するには納得できない部分がありました。受診のたびに主治医からカフェに参加したかを聞かれるのが億劫でしぶしぶ参加してみたというのが本音です。1回目に参加した時は正直よく分かりませんでした。しかし、2回目に参加した時に、他の利用者さんやスタッフの方とトランプをしていた妻が、すごく嬉しそうな笑顔に変わったのです。久しぶりに妻の笑顔を見ることができ、「またカフェに行ってみよう」という気持ちになりました。

Q3. 介護者の立場から、カフェを利用して良かったと思うことはどのようなことですか？

A カフェで同じような境遇の家族との交流や専門の方との関わりから、障害者手帳を申請することで医療費の助成や、様々な福祉サービスを受けることができることなどの情報を得ることができました。妻への接し方についても、「怒ってはいけない」「否定してはいけない」ということを他の家族や、職員さんから学びました。今は、怒ってしまった日や怒らずに過ごせた日のことを毎日、ノートにメモしています。また、家にいるとどうしてもカリカリとしてしまうことが多く、カフェは、介護者にとって同じような境遇の家族と交流し相談し合える、心の安らぎの場となっています。



▲オレンジカフェの様子



▲ボランティアの皆さん

作業療法士：佐藤 友美さん

Q1. 当事者またはその家族との関わりの中で意識していることを教えてください。

A 私たちが重要だと考えていることが大きく分けて2つあります。一つは「傾聴する」ということです。カフェの利用者の方たちはまず「誰かに話を聞いてほしい」という思いが強く、アドバイスや治療方法を聞きたいだけではないということなのです。認知症ご本人だけでなく、家族の悩みや日常生活のちょっとした悩みは、病院や施設ではなかなか話す機会がなく「言いたいことがちゃんと伝えられない」「他にも話したいことがあったけど話せなかった」という状況が多いようです。カフェの気軽さを利用し、気楽に話をしていただきたいと考えています。

もう一つは認知症の方の潜在能力を引き出して、それを家族に見てもらい、その人らしい面が残っていることを感じてもらうことです。ご家族は、認知症が進行する前の認知症の人の人格やその人らしさがなくなっていくことに喪失感を強く感じるようです。「そこに本人は確かに存在しているのに、今まで連れ添ってきた“その人”はいない」という感覚だそうです。潜在能力、その人らしい姿を見ることで、このつらい喪失感を多少和らげることができると感じています。持っている力を伝える方法として、カフェは本人と家族が同じ場にいることで、活動をしている姿を見せることができます。

治療場面や通所系サービスは、同じ場面に家族がいることは少なく、口頭で伝えるのみになり家族としては半信半疑なようです。

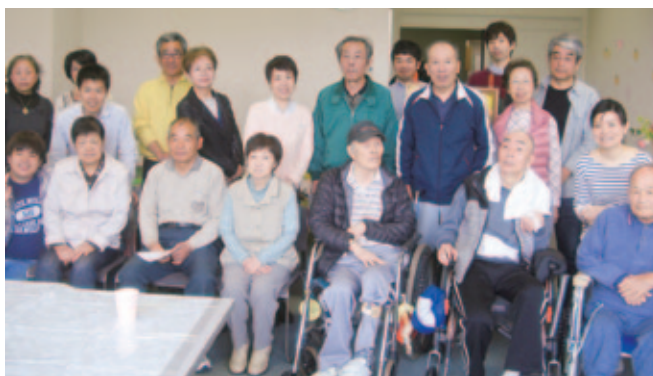


▲佐藤友美さんと那波さん

Q2. 地域での認知症支援の体制について今後期待していることがあれば教えてください。

A 色々な施設や市の職員方が、カフェを見学に来ていただいております。認知症カフェが広がっていく流れがあるようです。新オレンジプランの中でも認知症カフェを増加させるという内容が載っています。また認知症がメディアに取り上げられる機会が多くなったことで、ボランティアで協力していただける地域の方々も増えてきています。認知症カフェはフォーマルとインフォーマルの間にある、新しい形の支援形態でその良さが、みなさんに伝わるよう祈っています。

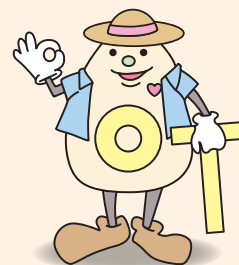
あとは、たくさんの方のOTの方にもっと積極的にこのような地域での取り組みに参加してほしいと思います。「業務」ではなく「ボランティア」という形で地域の方々と協力していくことで、地域の方々の考えや思いを感じ取れると思います。



▲参加者とボランティアの皆さん

健寿荘施設長 増井 玲子 先生

オレンジカフェ由布を立ち上げるまで、私は認知症の治療ケアにおける作業療法士の重要性が良く分かっていなかったような気がします。作業療法士が介入し、利用者さんと交流を取る際に、とても“気づき”のセンスが良かったです。会話も作業療法士が媒介となり対人交流が違和感なく広がっていきました。利用者さんの状況や、ご家族の雰囲気を感じ取り、その方々が楽しみながら能力を発揮できるゲームや話、活動をさりげなく提供してくれます。カフェに来たみんなが笑顔になり、認知症と明るく笑いながら付き合っていける雰囲気作りにも重要でした。今後もより多くの作業療法士の方たちに認知症カフェに参加していただきたいと思っています。



まんが 作業療法物語

～認知症編～

大分県立



Aさんは認知症を発症した60歳代の女性
銀行で自分の名前を書くことができず、
心配した夫といっしょに病院を受診しました

Aさんは、まだお若いですが、
アルツハイマー型認知症を
発症されています
今後、少しずつ記憶障害が
進行していくでしょう

ご自分のお名前を書けなかったのは
失書という症状です
これから、物の使い方が分からなくなる
失行という症状も出てくるかもしれません

この病気は進行を
遅らせることが大切です
焦らず、ゆっくりと
治療をしていきましょう

これから
どうしたら
よいのでしょうか？

認知症カフェという
認知症を患ったご本人と
そのご家族が集う会があります

ぜひ通って
みてください

明るく活発なAさんでしたが、
徐々に電子レンジの使い方が分からなくなったり、
火の消し忘れが目立つようになりました

私がやるから大丈夫
座っていなさい

妻を心配した夫が
家事全般を行うようになり、
Aさんの主婦としての役割が
少しずつ減っていきました

認知症カフェ
という...



2回目の認知症カフェ

Aさんトランプを一緒にしましょう

いやいや、妻はトランプなんてできないですよ

ごめんなさいね...

ここにいるみなさんも最初はそうおっしゃっていたんですよ 大丈夫!!

いざ、ババ抜きを始めましたが、自分のカードを持ったまま固まってしまいました

同じ数のカードを合わせることはできたのに、何が原因かしら

Aさんは、たくさんいる参加者の中からどのカードを取って良いのか分からず戸惑っていました

療子はAさんに手を添え隣のカードからトランプを引く動作をサポートしました

私が「はい」と言ったときに前にあるトランプを取って下さいね

はい

療子が合図を出したことで、Aさんはどのカードを取れば良いか分かりました

引いたカードの数字と同じ数字のカードはありますか?

えーっと、あっ! あったわ

やったあ!

こんなに笑う妻を久しぶりに見たよ!
このカフェにもう少し通ってみようと思うよ

その後もカフェで、園芸や料理など様々なことにチャレンジしました

料理をするときはなるべく道具を使用せず、工程を減らす工夫をしました

今日は、スイートポテトを作ります
レンジで温めたサツマイモの皮をむきましょう
熱くないので、手でむけますよ
皮をむいたらつぶしましょうね

火や包丁を使わずにできるのは、安心だなあ
簡単なことなのに気付かないものだねえ

今度の週末に孫が遊びに来るから、一緒に作ってみるか

きっと喜ぶわね、ふふふ

Aさんがカフェの利用に慣れ、
夫から離れて他の参加者と活動に参加できるようになってきたため、
療子は二人にある提案をします

Aさん、この数か月で
すごく変わりましたね
次のステップに
挑戦してみませんか？

お一人で
通えるところを
見つけませんか？

カフェに来て、
いろいろな方と
お友だちになれた
今のお母さんなら、
一人で通えると思うなあ

少し不安だけど…
やってみようかしら



Aさんと夫は、週2回デイサービスを利用することを決めました

デイサービスの利用初日、療子も同行し、スタッフの方へ
Aさんとの関わり方を伝え、
早くなじめるよう支援しました

初めまして
分からないことがあったら
何でも聞いてくださいね

Aさんは夫が居ないことに不安を感じ、
施設内を歩き回り、夫を探す姿が見られました

お父さんが居ない…
探さなきゃ
お父さーん

療子は、Aさんが落ち着いてデイサービスを利用できるように、
洗濯物を干す、配膳の準備をするなどの役割を担ってもらうようスタッフに提案しました

Aさん、
洗濯物を干すのを
手伝ってくれませんか？

最近、
全然してないから
できるかしら

Aさんでもできるよう、作業を細かく分け、
スタッフとペアでできるよう工夫しました

Aさん、おはようございます
今日もみなさんのサポート
よろしくお願いしますね

みなさん、Aさんがいないと
寂しいみたいで
「今日は来てないのか？」って
聞かれるんですよ

本当に？
うれしいわ

3カ月後、
夫が居ないことにも不安を感じず、
落ち着いて過ごす
Aさんの姿が、そこにありました

また利用者や職員の方とも
楽しそうに会話するAさんがいます

Aさんの夫はカフェに通い出してすぐ、
Aさんの写真を撮るようになりました

以前は変わっていく
妻を受け入れることが
怖くて私もつらかったなあ

今は、その時々を妻を
カメラに収めておきたいと
思っているんです

妻がデイサービスに通い出して、
自分の時間ができたのもよかったですよ
気持ちに余裕をもって妻に接することができる

現在、Aさんは自宅で夫と一緒に家事をしたり、孫との料理を楽しんでいます
また、カフェの参加者に誘われ、市が開いている文化教室に通うなど、
夫と出かけることも増え、日々活き活きとした生活を過ごしています

作業療法士は、認知症の特性を理解し、
その方の「困っていること」の解決法や「したい」と望むことの実現に向け、
あらゆる方法を考えて一緒に取り組んでいます

「安心できる暮らしやすい環境作り」を通して
「認知症とともに、よりよく生きる」お手伝いをします

おわり

教えて! 作業療法

厚生労働省より 2015年1月27日に 「新オレンジプラン」が 発表されました



高齢化の進展に伴い、認知症の人数は2012年に462万人(約7人に1人)であったのが、2025年(平成37年)には認知症高齢者が約700万人(約5人に1人)になると予測されています。「**認知症の人の意志が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現**」を基本的な考えとして、支援体制を整えていきます。今回は新オレンジプランの中の7つの柱を紹介します。

「新オレンジプラン」の7つの柱

1

認知症への理解を深める ための普及啓発

- 全国的なキャンペーンや認知症の方の言葉を積極的に発信
- 認知症サポーターの増員 など

2

認知症の容態に応じた適時・ 適切な医療・介護等の提供

- 容態の変化に応じて医療や介護が適時に切れ目なく最もふさわしい場所でサービスを受けられる仕組みの作成

3

若年性認知症施策の強化

- 就労や社会参加の支援のためのネットワークの作成
- 家族の方への支援ハンドブックの配布 など

4

認知症の人の介護者への支援

- 認知症初期集中支援チーム(作業療法士、看護師、精神保健福祉士、社会福祉士など)による早期診断対応
- 認知症や介護者の方が気軽に交流し、情報交換や相談ができる認知症カフェの設置

5

認知症の人を含む高齢者に やさしい地域づくりの推進

- 生活の支援や社会参加への支援、環境の整備

6

認知症の予防法、診断法、治療法、リハ ビリテーションモデル、介護モデル等の 研究開発及び、その成果の普及の推進

- 認知症の治療薬の開発や地域全体で認知症予防に取り組む仕組みの作成

7

認知症の人やその家族の 視点の重視

- 調査や研究を行い、支援策の考案
- 認知症の方の生きがいづくりを支援する取り組みの推進

これからは認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境の整備が必要です。国を中心にそれぞれの地域で、認知症やその家族の方も安心して暮らすことができる社会の実現に向け取り組みが進められています。



第32回 全体研修会

平成27年2月15日(日) 10:00～15:00
ホルトホール大分 302・303会議室

テーマ：認知症初期集中支援チームと作業療法士の具体的な取り組みについて



荒尾こころの郷病院 作業療法士 松浦篤子氏の講義

「認知症初期集中支援チームと作業療法士の具体的な取り組み」と題し、大分県福祉保健部高齢者福祉課の吉田知可氏と、熊本県荒尾市で作業療法士としてチームに関わられている、荒尾こころの郷病院の松浦篤子氏にご講義いただきました。認知症初期集中支援チームは「新オレンジプラン」の7つの柱の一つであり 2018 年度までにすべての市町村に配置されることが決められています。大分県ではすでに豊後高田市でチームが発足されており、今後は各市町村でも立ち上がっていくと思われます。

講義内容は認知症の方々に対する国の施策や、支援チームの概要や取り組みについての説明がありました。一連の流れや評価の種類、具体的な活動内容について理解を深めることができ、さらに事例を通して、作業療法士の役割や可能性を感じることができました。同時に支援チーム員として必要とされる職種となるためには、評価や対応力が求められるため、今後もこれらを補うべく知識の向上や啓発に努めたいと感じました。



ディスカッションの様子



大分県福祉保健部高齢者福祉課の吉田知可氏

第18回 大分県作業療法学会

テーマ：「地域包括ケアシステムの実現に向けて
～いま作業療法士が果たすべき役割とは～」

開催日時：平成27年1月25日(日) 9:25～16:30

開催場所：コンパルホール 3F (多目的ホール、300・308・309会議室)

内 容：①特別講演 「介護予防とヘルスプロモーションにおける作業療法士の役割～健康増進のための支援～」

講 師： 安本 勝博 氏
(岡山県津山市健康増進課 主査 作業療法士)

②講 演Ⅰ 「杵築市の挑戦～介護予防・日常生活支援総合事業における取り組み～」

講 師： 江藤 修 氏(杵築市高齢者支援課 課長補佐)

③講 演Ⅱ 「作業療法士一人一人が果たすべき役割
～地域包括システムを推進するために～」

講 師： 佐藤 孝臣 氏(大分県作業療法協会 副会長・
(株)ライフリー代表取締役 作業療法士)

④演題発表 指定演題(口述発表：5演題)
一般演題(口述発表：15演題)

⑤学会長賞表彰式

受賞者： 入口 晴香 氏(デイサービスセンター楽)
「生活機能向上支援におけるADL・IADLの評価
～事例を通しての紹介～」

上野 恭輔 氏(諏訪の杜病院)
「脳出血を発症した透析患者に対する回復期リハビリテーション～作業療法士に求められること～」

参加者数：213名

特別講演では、安本氏が津山市におけるヘルスプロモーションの取り組みを、講演Ⅰ、講演Ⅱでは、江藤氏、佐藤氏が杵築市をはじめとしたモデル市の日常生活支援総合事業における専門職種の必要性や取り組みの紹介など、地域包括ケアシステムの推進に向けた実践をそれぞれの視点で講演していただきました。また講師の方々から会員一人一人が明日からできる地域での役割についても具体的なアドバイスがあり、職場だけにとどまらず協会活動や地域の活動に対する参加意欲の向上につながったのではないかと感じました。

午後からの演題発表では、学会テーマに即した発表として今年度より指定演題を設けました。他の演題発表も含めて学会全体が、それぞれの領域を越えて地域での作業療法士の役割について考え、意見交換をする場となりました。また、今回の学会には作業療法士のみならず行政などの関連機関からの参加もあり、学術研鑽の場にとどまらず作業療法士の存在を広く他職種に知っていただく場となったと考えます。



安本勝博氏の講演



江藤修氏の講演



一般演題の口述発表



学会長賞を受賞した
上野恭輔氏と入口晴香氏

「日々、思うこと」

伊藤医院

野 仲 久 美



日々の生活で心にストレスを抱え、身体に無理を強いら、その積み重ねの中で心身の不調が出てきます。同じ状況で生活したとしてもストレスの感じ方や対処の仕方、身体への関心や人生への思いは人それぞれです。身体の不調や病気は私たちのそうした考えや生活をもう一度しっかり見つめてみるチャンスなのかもしれないと思います。

三十年近くの間、多くの方と出会い関わりながら仕事をしてきました。今私は、温泉施設のあある診療所で、作業療法士一名と健康運動実践指導者一名のスタッフ二名で働いています。温泉治療の為、県外からも様々な病気を抱えた方々が来られます。のどかな風景だけが取り柄の田舎の診療所に何故わざわざ…と思いつつも、来られた方々にも私にも何かしら得るものがあるような縁を感じます。日常生活から離れ治療をし、リハビリをし、温泉に浸かり、散歩をし、そして病気のことや生活のこと、人生のことを考えてみる。

私が毎日心がけることは、丁寧に温かく優しく、いつも変わらない態度で患者様と接すること。傾聴し、気持ちに寄り添うことで信頼関係が生まれ、信頼できればより深く関わることができます。私が何をしたとしてもしないとしても、入院して過ごす毎日に意味はあると思いますが、できれば私自身が、来て下さった方々に自分の身体のことや物事の考え方、生活や人生について見つめ直すきっかけになりたい。願わくは、病気を抱えながらも前向きで喜びのある人生を送れるよう、作業療法士として、そして人として少しでも力になれる存在になりたいと日々思いながら仕事に取り組んでいます。

活動報告 2015年3月▶2015年6月

制度対策研修会Ⅱ「介護報酬改定から考える」 ～医療から地域へ、作業療法士が求められること～

日 時：平成27年3月8日(日) 10:00～12:30
場 所：藤華医療技術専門学校
内 容：① 医療機関を退院した後の対象者の生活とは
② 地域で作業療法士に求められるアセスメントについて
講 師：佐藤 孝臣(副会長／株式会社ライフリー)

生活行為向上マネジメント リーダー研修会

日 時：平成27年6月6日(土) 10:00～17:00
7日(日) 9:00～12:00
場 所：大分県作業療法協会ビル
講 師：佐藤 友美(地域医療機能推進機構 湯布院病院／日本作業療法士協会 生活行為向上マネジメントプロジェクト推進委員)
内 容：講義、グループワーク、事例発表

地域ケア会議助言者研修会

日 時：平成27年3月13日(金) 19:30～21:30
場 所：大分県作業療法協会ビル
講 師：佐藤 暁(常務理事／井野辺病院)
内 容：講義、フリーディスカッション
① 地域ケア会議に求められるOTの役割
② 助言者としての覚悟について

新卒者研修会

日 時：平成27年6月14日(日) 9:30～16:40
場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ アイネス
内 容：① 大分県作業療法協会の歴史、組織について
講 師：高森 聖人(会長)
② 大分県作業療法士連盟の紹介と説明
③ 協会各部署の説明、紹介
④ 支部説明、紹介
⑤ 支部別交流会
⑥ 日本作業療法士協会 生涯教育制度について
講 師：山崎 翔太(教育研修部副部長)
⑦ 関連団体の紹介と説明
⑧ 協会及び連盟入会について
講 師：藤原 肇(事務局長)
矢野 高正(財務部長)
森 勉(連盟事務局長)

生活行為向上マネジメント 研修会

日 時：平成27年3月15日(日) 9:30～13:00
場 所：大分リハビリテーション専門学校
内 容：模擬事例演習(個人ワーク)

平成26年度 第2回 理事会

日 時：平成27年3月24日(火) 19:00～20:30
場 所：大分県作業療法協会ビル
参加者：理事14名、監事2名

平成27年度 第1回 理事会

日 時：平成27年4月24日(金) 19:00～20:30
場 所：大分県作業療法協会ビル
参加者：理事14名、監事2名

平成27年度 定時総会

日 時：平成27年5月24日(日) 10:00～12:00
場 所：コンパルホール
出席者：54名 議 決：422名

地域ケア会議助言者養成道場

日 時：平成27年6月21日(日) 10:00～15:00
場 所：大分県作業療法協会ビル
講 師：佐藤 暁(常務理事／井野辺病院)
内 容：① 地域ケア会議において作業療法士が果たす役割
② グループディスカッション(事例を通して)



公益社団法人大分県作業療法協会
イメージキャラクター紹介

おってい

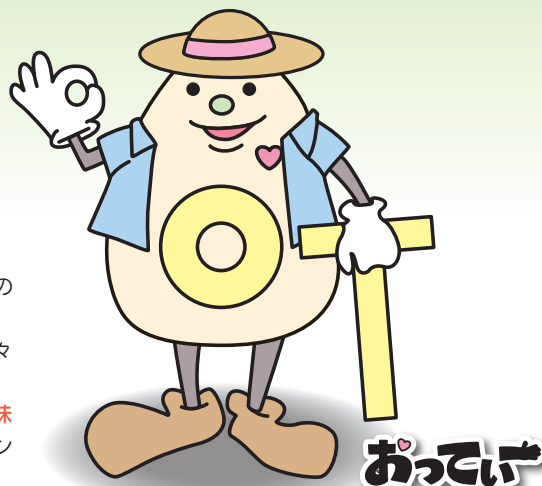
■コンセプト

大分県といえば「おんせん県おおいた」、温泉といえば「温泉卵」。
キャラクターモチーフを「卵」としたのは、県の特徴のみを表現したもの
ではありません。

卵は、生でも半熟でも完熟でもそれぞれの味わいがあります。そして様々
な料理にやわらかな味わいを与える特性を持っています。

この卵の特徴と、『元気な人も、病氣や怪我をおった人もそれぞれの味
わいや豊かな個性、強みがある』という作業療法の思考と重ね、デザイン
しました。

丸い体は、作業療法の優しい雰囲気が出るように。体と杖で作業療法
『OT: Occupational Therapy』を表現しています。



原画作成者：神谷輝子(長門記念病院)



作業療法 フェスタ2015

日時 平成27年8月30日(日)
AM10:00~PM3:00

場所 イオン パークプレイス大分店
大分市公園通り西2丁目1 (1F サニーウォーク催事場)

内容

『心ワクワク! 体イキイキ!』

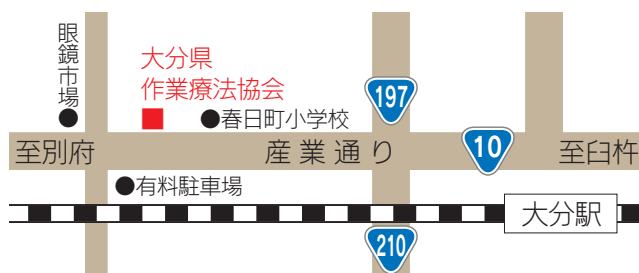
- ★親子でワクワク作業療法
- ★クイズでイキイキ健康づくり
- ★使ってワクワク福祉用具
- ★体イキイキ めじろん体操

◆後援: 大分県、大分市、(社)大分県社会福祉協議会、(公)認知症の人と家族の会 大分県支部、
大分県保健医療団体協議会、大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、
TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送

公益社団法人 大分県作業療法協会
☎.097-547-8662 ✉oita_ot@true.ocn.ne.jp
☆みなさまからのご相談を随時受け付けております。



リハビリテーションのことや、作業療法のことで分からなかったり、お困りのことがありましたら、右記までご連絡ください。



公益社団法人 大分県作業療法協会
〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2 大分県作業療法協会ビル
TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663
<http://www.oita-ot.com>